

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かなこどもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第112号 R6. 3. 4

令和5年度「わくわく・どきどき SDGs ジュニアプロジェクト」

府内小中学校において、「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」を活用し、実社会における課題の解決に向けて、企業等の協力を得ながら探究的な学習に取り組む「わくわく・どきどき SDGs ジュニアプロジェクト」を進めています。豊能町からは東能勢中学校と東能勢小学校が本プロジェクトに参加しました。

※「2025年日本国際博覧会協会教育プログラム」・・・持続可能な開発目標（SDGs）について知り、地域や社会の課題を自分と関連付けて考え、その課題の解決にむけて探究活動を展開する内容。簡単には答えの出ない問いに対して挑戦する力や、他者と協働する力、社会の課題を見つけ具体的に行動する力等を育成することをねらいとしています。



わくわく・どきどき SDGs ジュニアフォーラム（東能勢中学校）

2月10日（土）に大阪府立男女参画・青少年センター（ドーンセンター）において、本フォーラムへの出場を希望した25校のうち、第一次選考を経て選ばれた7校の代表生徒が、「すべてのいのちが輝くアイデア」をプレゼンテーションする「わくわく・どきどき SDGs ジュニアフォーラム」が開催されました。

フォーラムへの参加にあたって、東能勢中学校2年生は、SDGsに取り組む企業とのアイデアミーティングを実施しました。コクヨ株式会社、ネスレ日本株式会社、カゴメ株式会社の3社に来ていただき、中学生に対して自社の取組内容を伝えていただいたり、中学生が考えたアイデアに対してアドバイスやさらに深く考える観点等について提言していただいたりしました。

フォーラム当日は、緊張した様子も見られましたが、抽選によりトップバッターを務めることになり、冒頭から豊能町や学校名をアピールし、会場をひきつけました。「なくそうフードロス！使おうフードロス！～小さなことからコツコツと～」というテーマで、食品ロス削減に向けた提案を堂々と発表しました。具体的には、給食の残飯を肥料に変えることや

肥料の入れ物も土にかえる袋にすること、給食の残飯のポイント制を導入することで大阪の給食残飯ゼロをめざすことなどを提案しました。大学の先生方や企業の方々による審査の結果、見事銀賞を受賞しました。今後もSDGsへの理解を深め、持続可能な社会の実現について主体的に考え自ら行動する力をつけていってほしいと思います。



SDGs ジュニアフォーラムに参加した東能勢中学校の生徒の感想

SDGs ジュニアフォーラムに参加すると決まった時、最初は形にならず、大変でした。でもみんなで少しずつ提案を良くしていくことで、形になり、第1審査を通過したときは達成感を感じました。でも「今よりもっと良い物を作らないと他校に負けてしまう。もっと出来る！」と思った次の日からSDGsを考える日々で忙しかったけど、大変と思うより楽しいと思うことが多く、みんなで取り組んだ時間は充実していました。当日、ドーンセンターで発表できたのは、大きな経験になったと思います。ありがとうございました。

オンライン SDGs ポスターセッション（東能勢小学校）

2月19日（月）にオンラインによるポスターセッションが行なわれました。府内11校の小学生がポスター等で表現した「すべてのいのちが輝くアイデア」について、他校の児童と発表し合い、SDGsへの意識を互いに高めました。東能勢小学校5年生は「わたしたちの地元活用」をテーマに、豊能町で販売されている「かあちゃんみそ」や「猪すじ肉カレー」を紹介し、地産地消には4つのメリット（①安い②新鮮③旬④地域に貢献できる）があることを伝えました。画面越しでも自分たちのアイデアをしっかりと発表し、普段はなかなか関わることのない学校とも交流でき、貴重な経験となりました。



吉川中学校改修工事に伴う光風台小学校への移転に係る

保護者説明会のご報告

（質問に対する回答）

説明会のご質問に対する回答を豊能町ホームページに掲載しましたので、お知らせいたします。

<https://www.town.toyono.osaka.jp/page/page006330.html>

